第23回宝塚混声合唱団音楽会

2011年7月3日(日)

いたみホール(伊丹市立文化会館)　開場 PM1:30　開演 PM2:00

主催:宝塚混声合唱団　後援:宝塚市・伊丹市・宝塚市教育委員会・宝塚市文化振興財団・宝塚合唱連盟

ごあいさつ

本日は私たち宝塚混声合唱団の音楽会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

今回は、1935年エストニア生まれのアルヴォ・ペルト、1956年アメリカ生まれのスティーヴ・ドブロゴスの作品をお聴きいただきます。

まずアルヴォ・ペルトの1985年作曲「テ・デウム」と1990年作曲の「ベルリン・ミサ」の2曲をお届けします。神を讃える「テ・デウム」と、カトリック教会から作曲委嘱を受けた「ベルリン・ミサ」、共に現代の作品ですが、遠くグレゴリオ聖歌を思わせるような旋律を含んでいます。何よりの特徴である高音の清澄な音色をお届けしたいと努力してまいりました。

次にアメリカに生まれスウェーデン在住の作曲家スティーヴ・ドブロゴス作曲「レクイエム」を歌います。この曲も北欧の感性をただよわせ、現代音楽の感覚を感じさせてくれます格調の高い宗教曲と思います。

現代のヨーロッパにおいて、私達日本人には思いもつかないような国の運命に翻弄されてきたバルト3国の一つ、エストニアは1991年独立回復を宣言したそうです。作曲者が自国の独立回復と再生を願って音楽に託したであろう平和への願望に思いを馳せていただければ幸いです。

指揮者であり、私達の指導者であります大森地塩先生のご指導と、演奏を担当していただきましたアンサンブル・ムジカ・アニマの皆様、練習時にピアノ担当をいただきました先生方に感謝をいたします。

最後になりましたが東日本大震災から約4ヶ月が過ぎました。お亡くなりになられた方々、未だに多くの行方不明の方々、全ての被災者の方に心からお見舞い申し上げます。最後の曲「レクイエム」を哀悼の心をこめて歌います。

今後とも宝塚混声合唱団へのご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

2011年7月　宝塚混声合唱団

Program

Arvo Pärt　Te Deum
アルヴォ・ペルト　「テ・デウム」

Piano　田中 一花
Ison　古家 未希

休憩

Arvo Pärt　Berliner Messe
アルヴォ・ペルト　「ベルリン・ミサ」

休憩

Steve Dobrogosz　Requiem
スティーヴ・ドブロゴス　「レクイエム」

Soprano solo　古家 未希

オーケストラ：　アンサンブル・ムジカ・アニマ

指揮：　大森 地塩

アルヴォ・ペルト
「テ・デウム」

アルヴォ・ペルトは1935年エストニア（合唱王国バルト三国の一つ）に生まれた。1970年代半ばまで“ソヴィエト前衛派”を代表する一人として12音技法や音響作曲法などの前衛的な作品を発表していたが、やがて行き詰まり1968年から作曲活動をほぼ停止し、自分の音を求めてグレゴリオ聖歌と中世・ルネッサンス期の声楽ポリフォニーの研究に没入した。1976年、8年に亘った沈黙に終止符を打ち、中世声楽曲の研究の中から編み出した作曲様式“ティンティナブリ”（tintinnabuliラテン語で“小さな鐘”の意）を用いた作品を発表し始めた。ペルトはキリスト教の信仰心が篤かったこともあってソ連支配下のエストニア政府と折り合いが悪く何度となく摩擦を起こしていたが、1980年になって政府から事実上追放され家族と共にウイーンへ行き、翌年奨学金を得て出向いた当時の西ベルリンにそのまま移住した。その後1993年になって、1991年にソ連から独立宣言していたエストニアに帰国している。

「テ・デウム」は1984年西ドイツ放送の委嘱により作曲され、1985年1月19日ケルン放送合唱団がケルンで初演。この初演は、共産圏の作曲家の作品を西側に積極的に紹介したことで知られる楽譜出版社ユニバーサル・エディション（本社ウイーン）の経営者であったアルフレド・シュリーに献呈されている。

「テ・デウム」も“ティンティナブリ”の作品であるが、この様式は音の要素を極限まで削って簡素化すること、和音部とメロディー部が2本の柱を構成し両者が絡み合って濃密な音を織り出すこと、歌詞の発音と文法上の特性がメロディー部の動きを規定することなどの特徴を持つ。「テ・デウム」においては概ねソプラノとテナーが和音部、アルトとバスがメロディー部を歌い、メロディー部は上述のように歌詞の特性に従っていくつかのパターンで動いている。またこの「テ・デウム」で特徴的なこととして、グレゴリオ聖歌風の詠唱（チャント）が先導したあと合唱が展開するパターンがしばしば現れ、加えて一定の音程の低音が鳴り続けて教会堂の風合いを出すなど、現代宗教合唱曲ではあるが、合唱の原点といえるルネッサンス期のポリフォニー・ミサに通じるものを持つことがあろう。

「テ・デウム」は、“われ、汝を神とほめまつるTe Deum laudamus”に始まる賛歌で、ラテン賛歌中最も普遍的に用いられ、感謝を表わすときに用いられることから戦争の終結や戴冠式など国家的祝典や記念行事に使われて大規模、壮麗なスタイルになって来たが、ペルトの「テ・デウム」にはさほど華やいだところは感じられず深く内省的であるといえよう。敬虔なクリスチャンであるペルトは「テ・デウム」の歌詞について“不変の真理”を持ち、“山々が連なるパノラマを見るときに感じるはかり知れない静穏さ”を想起させる；またこの作品は“無限の流れの中で・・・時間を超越するもの”と心を通わせることを求めたものであり、“この作品を静と空の領域から丁寧に取り出す必要があった”と言っている。

（B：井上 喜光）

Arvo Pärt
Te Deum

Ⅰ	Te Deum laudamus, te Dominum confitemur.	私たちは神のあなたを讃え　主のあなたを認めます
Ⅱ	Te aeternum Patrem omnis terra veneratur.	全地が永遠の父であるあなたを崇めます
Ⅲ	Tibi omnes Angeli, tibi caeli et universae Potestates. Tibi Cherubim et Seraphim incessabili voce proclamant. Sanctus, sanctus, sanctus, Dominus Deus Sabaoth.	すべての天使たち　天と力あるすべての者はあなたに ケルビム　セラフィムも 絶えずあなたに声高に叫びます 「聖なる　聖なる　聖なるかな万軍の神なる主
Ⅳ	Pleni sunt caeli et terra majestatis gloriae tuae.	天地はあなたの栄光ある威厳に満ちている」と
Ⅴ	Te gloriosus apostolorum chorus. Te Prophetarum laudabilis numerus. Te Martyrum candidatus laudat exercitus.	名誉ある使徒たちはあなたを ほむべき預言者たちはあなたを 清い殉教者たちはあなたを　ほめたたえます
Ⅵ	Te per orbem terrarum sancta confitetur Ecclesia. Patrem immense majestatis. Venerandum tuum verum et unicum Filium. Sanctum quoque Paraclitum Spiritum.	世界中の聖なる教会があなたを認めます 計り知れない威厳に満ちた父を 尊ぶべきあなたのまことの唯一のおん子を そして慰め主でもある聖霊も
Ⅶ	Tu rex gloriae, Christe. Tu Patris sempiternus es Filius. Tu, ad liberandum suscepturus hominem, non horruisti Virginis uterum.	栄光の父であるあなた　キリストよ あなたは父の永遠のおん子です あなたは世の解放のため人間になろうとして おとめの胎もいといませんでした
Ⅷ	Tu, devicto mortis aculeo, aperuisti credentibus regna caelorum.	あなたは死のとげに勝って 信ずる者に天の王国を開けてくださいました
Ⅸ	Tu ad dexteram Dei sedes, in gloria Patris. Judex crederis esse venturus.	あなたは父の栄光の中に神の右に坐っておられ 裁く者として来ると信じられています
Ⅹ	Te ergo quaesumus, tuis famulis subveni, quos pretioso sanguine redemisti.	それゆえに私たちは願う あなたが貴い血であがなったしもべたちを助けてください
Ⅺ	Aeterna fac cum Sanctis tuis in gloria numerari.	栄光のうちにあなたの聖人たちと共に永遠に数えられますように
Ⅻ	Salvum fac populum tuum, Domine, et benedic hereditati tuae. Et rege eos, et extolle illos usque in aeternum.	主よ　あなたの民を救い あなたの世継ぎを祝福してください そして彼らを治め　彼らを絶えず永遠に高めてください
ⅩⅢ	Per singulos dies benedicimus te. Et laudamus nomen tuum in saeculum, et in saeculum saeculi.	私たちはどの日もあなたを祝福し あなたの御名をたたえます いつの世までも
ⅩⅣ	Dignare, Domine, die isto sine peccato nos custodire.	主よ この日私たちが罪を犯すことなく守られますように
ⅩⅤ	Miserere nostri, Domine, miserere nostri. Fiat misericordia tua, Domine, super nos, quemadmodum speravimus in te.	私たちを憐れんでください　主よ　私たちを憐れんでください 主よ　私たちがあなたに頼るほどに 私たちに慈悲を施してください
ⅩⅥ	In te, Domine, speravi: non confundar in aeternum.	主よ　私はあなたに寄り頼みました とこしえに揺らぐことのありませんように
ⅩⅦ	Sanctus, sanctus, sanctus,……..	聖なるかな　聖なるかな　聖なるかな

歌詞対訳：長尾 精（OB）（三ヶ尻 正氏、高橋 正平氏 他を参考）

アルヴォ・ペルト
「ベルリン・ミサ」

ベルリン・ミサは前曲「テ・デウム」の作曲者アルヴォ・ペルトによって、第90ドイツカトリック教徒総会のミサのために作曲されました。最初はソリスト（SATB）とオルガンのための曲でしたが、後に合唱と弦楽オーケストラ用に編曲されています。

カトリック教会のミサは、「最後の晩餐」を記念して人々が集い、聖書の言葉を聞き感謝をささげて祈る典礼で、ミサ曲は典礼に沿ってキリエ（あわれみの賛歌）、グローリア（栄光の賛歌）、アレルヤ唱、クレド（信仰宣言）、サンクトゥス（感謝の賛歌）、アニュス・デイ（平和の賛歌）と進行します。ベルリン・ミサには、アレルヤ唱がクリスマス用とペンテコステ（聖霊降臨）用の2種が用意されています。聖霊降臨祭用のアレルヤ唱には続唱“Veni Sancte Spiritus（聖霊来てください）”があること、初演が1990年5月24日に聖ヘドヴィクス教会大聖堂とされていることから、復活祭の50日目に行う聖霊降臨の主日のミサ曲と言われています。続唱は、昔はアレルヤ唱あるいは詠唱の後に続いて唱えられていたものですが、現在のカトリック教会のミサでは復活の主日、聖霊降臨の主日にアレルヤ唱に先立って唱えられます。続唱には、復活、聖霊のほかに聖体、死者、悲しみの聖母（スタバト・マーテル）があります。

テ・デウムと同じように、ベルリン・ミサにも“ティンティナブリ”（「テ・デウム」を参照）という作曲様式が用いられており、ほぼ全曲を通じてソプラノとテナーが和音声部、アルトとバスがメロディー声部を担当しています。研ぎ澄まされた、透明な氷のような音が、跳躍と衝突を繰り返しながらかもしだす不思議な響きを聞くと、この曲をヨーロッパの石造りの教会の中で聞いてみたいという衝動にかられます。石壁にあたった音は、反響しながら高い天井に昇り、そこから祈る心を包み込むように入りこんでくるように思えるからです。

しかし、この曲を歌う立場となった宝塚混声の団員は、音の跳躍の連続と不協和音に悩まされ続けました。指揮者の大森先生には「固い音を！」「あふれるように！」「音はぶつかっていいんです」と何度もご指導いただきましたが、本番では求められた透明で固い音をつむぐことができるでしょうか。特にアレルヤ唱の続唱は、各小節の拍数が変化する上、旋律を歌うパートに対して、ラテン語歌詞の単語の一つおきに、規則的に別のパートが重なるように配置されている難しさがあります。ペルトが目指した簡素化され集約された音とその奥にある深い思いを、皆様に届けることができるよう念じています。

この曲が作曲された当時の歴史的背景には、1989年11月のベルリンの壁の崩壊があり、この出来事のあと、東西ドイツは1990年10月の再統一に向かって進みました。ベルリン・ミサの初演が1990年4月15日の復活祭後であることを考えると、平和的な解決と統一に向かう時代の流れの中にあって、まさに自由と復活の喜びと共に、ペルトのシンプルな旋律が祈る人々の心に響きわたったことでしょう。日本はこの3月に東日本大震災という未曽有の災害を経験しました。復興の喜びが被災された全ての人にもたらされるようにと、私たちはこのベルリン・ミサに心を寄せて歌いたいと思います。

（A：西岡 有香）

Arvo Pärt
Berliner Messe

Kyrie

Kyrie eleison.	主よ　あわれみ給え
Christe eleison.	キリストよ　あわれみ給え
Kyrie eleison.	主よ　あわれみ給え

Gloria

Gloria in excelsis Deo et in terra pax hominibus bonae voluntatis.	天には神に栄光　地には善意の人々に平安あれ
Laudamus te,benedicimus te,adoramus te,glorificamus te,gratias	私たちはあなたをほめ　祝福し　崇拝し　たたえます
agimus tibi propter magnam gloriam tuam,	あなたの大きな栄光のために私たちは感謝します
Domine Deus Rex caelestis,	神である主　天の王
Deus Pater omnipotens.	全能の父である神よ
Domine Fili unigenite, Jesu Christe	ひとり子主イエス・キリスト
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris,	神である主よ　神の小羊　父のおん子よ
qui tollis peccata mundi, miserere nobis:	世の罪を取り除くお方よ　私たちを憐れんでください
qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.	世の罪を取り除くお方よ　私たちの願いを聞き入れてください
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.	父の右に座っておられる方よ　私たちを憐れんでください
Quoniam tu solus Sanctus, tu solus Dominus,	あなただけが神聖　あなただけが主
tu solus Altissimus, Jesu Christe,	あなただけが至高のお方だから　イエス・キリストよ
cum Sancto Spiritu: in gloria Dei Patris. Amen.	聖霊とともに　父である神の栄光のうちに　確かに

Erster Alleluiavers　zum Pfingstfest

第一アレルヤ唱　聖霊降臨祭のために

Alleluia, Alleluia.	神を賛美せよ
Emitte Spiritum tuum et creabuntur: et renovabis faciem terrae Alleluia.	主の霊を遣わしたまえ　万物は創造され　地の姿を新たになしたまわん

Zweiter Alleluiavers　zum Pfingstfest

第二アレルヤ唱　聖霊降臨祭のために

Alleluia, Alleluia.	神を賛美せよ
Veni Sancte Spiritus reple tuorum corda fidelium: et tui amoris in eis ignem accende. Alleluia.	聖霊来たりたまえ　主の信徒の心を満たしたまえ　主を愛する火を彼らのうちに燃やしたまえ

※ ベルリン·ミサには、アレルヤ唱がクリスマス用とペンテコステ（聖霊降臨祭）用の２種用意されている。
上記は本日演奏するペンテコステ用のアレルヤ唱である。

Veni Sancte Spiritus

Veni Sancte Spiritus, et emitte caelitus lucis tuae radium.	聖霊来たりたまえ　天よりあなたの光の輝きを放ちたまえ
Veni, pater pauperum,	来たりたまえ　貧しき者の父よ
Veni, dator munerum,	来りたまえ　恵みを与える方よ
Veni, lumen cordium.	来りたまえ　心の光である方よ
Consolator optime, dulcis hospes anime, dulce refrigerium.	最上の慰め主　霊魂の甘美な客　好ましい楽しみ
In labore requies, in aestu temperies, in fletu solatium.	疲れの中のいこい　暑いときのほどよさ　嘆きの中の慰め
O lux beatissima, reple cordis intima tuorum fidelium.	おお　至福の光よ　主の信徒の心の奥を満たしたまえ
Sine tuo numine nihil est in homine, nihil est innoxium.	主の意志になくば人にはなからん　罪ならざるところは
Lava, quod est sordidum, riga, quod est arium, sana, quod est saucium.	清めたまえ　汚れを　うるおしたまえ　乾けるを　癒したまえ　傷つけられたるを
Flecte, quod est rigidum, fove, quod est frigidum, rege, quod est devium.	和らげたまえ　固きを　温めたまえ　冷えたるを　正したまえ　道からそれたるを
	主を頼む信徒たちに神聖なる七つの恩恵を与えたまえ

Da tuis fidelibus in te confidentibus sacrum septenarium. Da virtutis meritum, da salutis exitum, da perenne gardium. Amen Alleluia.	善徳の功を与えたまえ　終末の救いを与えたまえ 永遠に喜びを与えたまえ 確かに　神を賛美せよ

Credo

Credo in unum Deum, Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae, visibilium omnium, et invisibilium.	私は唯一人の神　全能の父　天と地 すべての見えるもの見えないものの造り主を信ずる
Et in unum Dominum Jesum Christum, Filium Dei unigenitum, et ex Patre natum ante omnia saecula.	そして神のひとり子　唯一人の主イエス・キリストを信ずる 主はすべての時代の前に父より生まれた
Deum de Deo, lumen de lumine, Deum verum de Deo vero, genitum, non factum, consubstantialem Patri: per quem omnia facta sunt.	神からの神　光からの光 まことの神からのまことの神　造らずして生まれ 父と一体である　その方によってすべては造られた
Qui propter nos homines et propter nostram salutem descendit de caelis.	その方は私たち人類のため 私たちの救いのために天よりくだられた
Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex Maria Virgine: Et homo factus est.	そして聖霊により処女マリアよりからだを受け 人となられた
Crucifixus etiam pro nobis sub Pontio Pilato passus et sepultus est.	私たちのためにポンティオ・ピラトのもとで 十字架につけられ苦しみを受け葬られた
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.	そして聖書の通り三日目によみがえり
Et ascendit in caelum, sedet ad dexteram Patris.	天に昇って父の右に座っておられる
Et iterum venturus est cum gloria, judicare vivos et mortuos, cujus regni non erit finis.	そして栄光のうちに　生者と死者を裁くために再び来られる 主の国は終わることがないだろう
Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem: qui ex Patre Filioque procedit.	父と子から出て 主にして生命の与え主である聖霊（を信ずる）
Qui cum Patre et Filio simul adoratur et conglorificatur: qui locutus est per Prophetas.	それは父と子とともに拝み讃えられ 預言者によって語られている
Et unam, sanctam, catholicam et apostolicam Ecclesiam.	そして唯一の聖なる普遍的な使徒の教会（を信ずる）
Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.	私は罪の許しとなる唯一の洗礼を認める
Et exspecto resurrectionem mortuorum, et vitam venturi saecli.	そして死者の復活と来世のいのちを待ち望む
Amen.	確かに

Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus, Dominus Deus Sabaoth. Pleni sunt caeli et terra gloria tua. Hosanna in excelsis.	聖なるかな聖なるかな聖なるかな　万軍の神なる主 あなたの栄光は天地に満ちている いと高き所に　ホサナ（賛美の声）
Benedictus qui venit in nomine Domini. Hosanna in excelsis.	主の名によって来る方に祝福を いと高き所に　ホサナ（賛美の声）

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: miserere nobis. Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: dona nobis pacem.	神の小羊　世の罪を取り除くお方よ 私たちを憐れんでください 神の小羊　世の罪を取り除くお方よ 私たちに平安を与えてください

歌詞対訳：長尾 精（OB）（三ヶ尻 正氏、高橋 正平氏 他を参考）

スティーヴ・ドブロゴス
「レクイエム」

古今東西、人は自らの限りある生を嘆き、不死に深い憧れの念を抱いてきた。宗教は絶対的な存在としての神・仏への真摯な信仰を求め、永遠の生命の約束を人に与える。仏教(浄土教)では西方のかなたにある極楽には阿弥陀様がおられ、人が「南無阿弥陀仏」と称えることにより、阿弥陀様の慈悲で死後、極楽に往って生きることができるとする。キリスト教では人類の罪を背負って十字架上で死なれたイエス・キリストの復活と再臨、 そして地上にやがて神の国がもたらされることを人が信じることにより、 たとえ肉体は朽ちても死後は天国に往けるとする。

レクイエムは元来、 キリスト教において死者が天国に迎え入れられるように神に祈る、 カトリック教会の典礼で歌われたミサ曲である。現代社会では人は、科学技術を頼みとし、 より便利で、物質的に豊かな生活を求める一方、霊的な存在や神秘的なものを次々と退け、全能の神をも遠ざけて生きるようになってきたが、 レクイエムは宗教が人々の生活を支配していたヨーロッパ中世社会に生まれた、神に対する人の心からの祈りの音楽である。ミサ曲は入祭唱(Requiem　安息)に始まり、聖体拝領唱 (Lux aeterna 永遠の光)で終わる9章の典礼文から構成される。レクイエムは中世から今日にいたるまで多くの作曲家によって作曲されているが、典礼文の選択、構成は作曲家によりまちまちで、 また本来の宗教的な意味を離れた単に「死を悼む」曲もある。

ドブロゴスのレクイエムではLux aeternaの後に赦祷文（Libera me 私を救いたまえ）が歌われる。キリスト教では、死後天国に往った全ての魂は、 イエス･キリスト再臨の時、神による最後の審判を受けるとする。 Libera me は曲の冒頭と同じRequiem aeternam (永遠の安息)の歌詞で締めくくられている。天と地が揺れ動く、恐ろしい最後の審判の時に、火で焼かれるのではなく、 この地上にもたらされる神の国でも、死んだ時と同じように「永遠の安息が得られますように」と神に祈るのである。

神の支配する空間の静謐、荘厳。まるで天国に昇るかのような旋律の美しさ。神への祈りの切々たる力強さ。これらの一つでも皆様にうまくお伝えできれば幸いです。

＊ドブロゴスは1956年アメリカに生まれ、 1978年スウエーデンに移住した。この作品は今世紀初頭アメリカにおける同時多発テロにより3000名におよぶ犠牲者を出した2001年に作曲された。今年は驚天動地のニューヨーク ワールド トレード センタービル倒壊からちょうど10年目に当たる。

（B：鷲尾 純治）

Steve Dobrogosz
Requiem

Requiem

Requiem aeternam dona eis Domine,	主よ　彼らに永遠の安息を与えてください
et lux perpetua luceat eis.	そして絶えることのない光が彼らを照らすように
Te decet hymnus Deus in Sion,	神よ　シオン（エルサレム） で賛歌はあなたにふさわしい
et tibi reddetur votum in Jerusalem.	そして誓いはエルサレムであなたに果たされる
Exaudi orationem meam,	私の祈りをきいてください
ad te omnis caro veniet.	すべて肉なる人はあなたのもとに来るでしょう
Requiem aeternam dona eis Domine,	主よ　彼らに永遠の安息を与えてください
et lux perpetua luceat eis.	そして絶えることのない光が彼らを照らすように

Hostias

Kyrie eleison.	主よ　憐れみたまえ
Hostias et preces tibi Domine laudis offerimus,	主よ　私たちは賛美のいけにえと祈りをあなたに捧げます
tu suscipe pro animabus illis,	今日私たちが記念するこれらの魂のために
quarum hodie memoriam facimus.	あなたは受け入れてください
Fac eas, Domine, de morte transire ad vitam.	主よ　それらの魂を死から生命へ移らせてください
sanctu sanctu Domine Deus Sabaoth,	聖なるかな　聖なるかな万軍の主なる神
pleni sunt caeli et terra gloria tua.	あなたの栄光は天地に満つ
Hosanna in excelsis.	天の高い所に賛美を

Agnus Dei

Agnus Dei qui tollis peccata mundi	世の罪を取り除く神の子羊よ
dona eis requiem sempiternam.	彼らに永遠の安らぎを与えてください

Lux aeterna

Lux aeterna luceat eis Domine: Cum sanctis tuis in aeternum:　quia pius es.	主よ　あなたの聖人たちと同じく　彼らにもとこしえに永遠の光が照らしますように　あなたは情け深いから
Requiem aeternam dona eis Domine, et lux perpetua luceat eis.	主よ　彼らに永遠の安息を与えてください　そして絶えることのない光が彼らを照らすように
Lux aeterna luceat eis Domine: Cum sanctis tuis in aeternum:　quia pius es.	主よ　あなたの聖人たちと同じく　彼らにもとこしえに永遠の光が照らしますように　あなたは情け深いから

Libera me

Libera me Domine de morte aeterna in die illa	主よ　あの恐ろしい日に私を永遠の死から解き放ってください
tremenda,quando caeli movendi sunt et terra,	天と地が動くとき　あなたが火によって世を裁くために来る間
dum veneris judicare saeclum per ignem.	私は震えおそれる
Tremens factus sum ego et timeo dum discussio venerit	審判の日が来て
atque ventura ira.	その上怒りが来ようとする間
Dies irae dies illa calamitatis et miseriae, dies magna et	その日は怒りと災いと不幸の日
amara valde.	偉大で大いなる苦き日
Requiem aeternam dona eis Domine,	主よ　彼らに永遠の安息を与えてください
et lux perpetua luceat eis.	そして絶えることのない光が彼らを照らすように

歌詞対訳：長尾 精（OB）（三ヶ尻 正氏、高橋 正平氏 他を参考）